

麦穂だより

第94号

発行 武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎 2026年2月
事務局 川崎市高津区下作延3-16-30-203
村田芳包 TEL090-1427-7260
ホームページURL (<http://musashinoudon.dokkoisho.com/>)

【麦踏み】

～水撒けど ただ水撒けど 冬日照り～

～ただ一人 風に抗い 麦を踏む～

(雨鮎)

会長 北條 秀衛

新年に入り、今日、(2月8日)初めてまとまった雨(雪)が降りました。ほぼ40日水無しで、昨年夏も同様な早魃でさつま芋が全滅しました。この少雨状態は前年も同じで霜が立たず「麦踏み」は1回しかできませんでした。その結果、根は分結できず、収穫量は半減してしまいました。

今年は正月2日の夜にお湿り程度の雪が降り、暮れに撒いた水とあいまって何とか麦が踏める状態になっていました。お正月でしたので、誰も手伝いを呼ばず一人で麦踏みをしました。3日だけでは終わらず4日も踏みました。合計5時間かかりました。

正月のお湿り以降は、また、全くの水なし状態が続きました。津久井湖など水源地のダムは渇水のため底が見え始めてい

ます。初めてのことで、地元民の驚きのコメントがテレビで流されていました。1月25日に予定していたうどん会の「麦踏み」も延期となりました。この間、焼け石に水とは思いますが水撒きは麦畑全面に2回実施しました。てるてる坊主を逆さに吊るそうかと思っていたところ、ようやく待望の雪が降りましたのでうどん会の「麦踏み」ができそうです。

麦踏みは長靴を履き、点蒔きをした麦を狙って踏むため、常に地面を見ながら足に力を込めますので結構疲れます。一番疲れるのは常に下を向いている首です。二番目が足です。しばらく踏むと汗が滲んできます。簡単な作業ですが重労働です。運動不足の方ぜひ「麦踏み」にお出で下さい。



【寺小屋高津 親子うどん教室】

2月7日（土）9時より高津小学校特別活動室で寺小屋高津親子うどん教室開催
親子18組36名で行いました。

指導者（田中英夫、村田芳包、東原史記）3名



子ども達の感想



- うどん作りは初めてで難しいところもあったけど、先生に教えてもらってちゃんと作れたのでうれしかったです。
- 大変なところもあったけど上手にできて良かったです。
- 包丁で切るところと麺棒で伸ばすところが楽しかったです。
- 初めての体験だったけど、こんなに楽しかったと思ったので、また参加したいです。



《うどん会・会員募集中》

関東の小麦（地粉）を使って自分の力で作る「うどん」の味は絶対美味しい。グルメの皆さん是非挑戦してみませんか。「武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎」では、年間8回の講習会を開催しています。3月・7月・10月・12月上旬の日曜日午前と午後2回行います。

1回の参加費は1500円・会員の年会費は4000円です。会員になりますと、講習会の他各種イベントに参加できます。「うどん食べ歩き」・「麦まき」・「麦刈」・「芋掘り」など。「麦穂だより」も年4回お送りします。

- ◎ お申し込みされます方は、表紙記載の事務局までご連絡ください。
- ◎ 一度だけの体験参加も歓迎です。



【第3回定期講習会】

令和7年12月7日（日）高津高等学校調理室で開催いたしました。午前10時から会員16名・役員8名が参加。午後1時30分から9名参加。

今回は、六三四野農園産の小麦が、製粉所の都合で間に合わず小平の農林61号を使用いたしました。正月用うどんの製作へ向け皆さん実習に励みました。

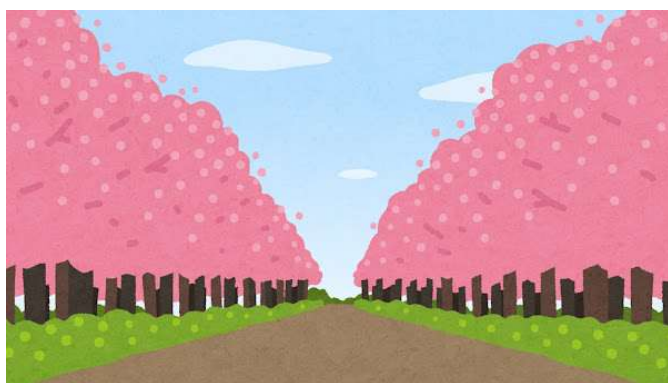
活動報告（前号以降）

- ◆ 12月7日（日） 第3回講習会 高津高等学校
- ◆ 令和8年1月25日（日） 麦踏 晴天続きの為、長期間降雨なく中止
- ◆ 2月7日（土）派遣講習「寺子屋高津」
- ◆ 2月21日（土） 麦踏 六三四野農園

【うどん食べ歩き】のご案内（会員の皆様へ）

今回は、埼玉県内に数あるうどん店の中で有名な「じんこ」で修業した店主が腕をふるう手打ちうどん店「武蔵野うどん じんこ 三軒茶屋店」へまいります。

- ◎ 日 時 3月28日(土)
- ◎ 場 所 武蔵野うどん じんこ 三軒茶屋店
- ◎ 集合場所 田園都市線「駒沢大学駅」改札10時集合
*うどんを食べる前に「駒沢公園」でお花見をいたします。
- ◎ 参加費 2000円（食事と飲み物付き・会から一部補助あり）
- ◎ 参加申込 事務局 村田芳包まで電話で



【第26回定期総会】予告

- ◎日 時 令和8年5月24日（日）午前11時から
 - ◎会 場 中原市民館2階料理室
 - ◎次 第 第1部 定期総会 事業報告・会計報告・事業計画・予算等
第2部 会員交流会 全国のうどん試食会
- * 詳細は後日、文書をもってご案内

編集後記

12月から2月上旬まではほとんど降雨がなく乾ききっていた台地に2月7日遂に雪が降った。11日も雨になり小麦もやっと思い切り背を延ばす事ができたと思う。これで安心して頭から踏みつけられる。今年こそ豊年収穫を期待できそうだ。

次号の麦穂だよりはふさふさタワワに実った麦穂写真で飾れそうだ。（中野）